

業界経験豊富な2人がタッグ—— 約40年の歴史を誇る運送会社の舵を取る

かつみ運輸 株式会社

東京都板橋区高島平 7-18-4

代表取締役
松山 大輔

所長
笠原 武延

1985年の設立から40年近くにわたって事業を手掛ける『かつみ運輸』。建築資材や什器、海外輸出品の運送をメインに、信頼と実績を蓄積してきた企業だ。本日はタレントのおさる氏が同社を訪問。2023年10月に事業を引き継いだ松山社長と、業界経験豊富な笠原所長にお話を伺った。



interviewer interview
おさる



——早速ですが、松山社長の歩みから順を追ってお聞かせ下さい。

(松) 打ち込んでいた野球、絵が好きで目指した芸大を諦めるなど、振り返ると若いころは挫折ばかりの人生でしたね(苦笑)。学校卒業後は自分探しの旅をしようと、バックパッカーで世界各地を巡ったんですよ。神戸から上海、北京、モスクワ、ヨーロッパと1年ぐらいつまみとしました。多くの刺激を受ける日々でしたが、自分の進むべき道を見つめることはできずに帰国したんです。

——いや、海外を旅した経験は必ず社長を成長させたはずですよ。帰国後は？

(松) 飲食のアルバイトもしましたが、同じ場所、同じ顔ぶれで仕事をする毎日を繰り返すというのがどうも性に合わなくて。それで飛び込んだのが、運送業界だったんです。自分のペースで仕事ができますし、各地を回れますからね。はじめて自分に合う仕事に出会えたという感覚でした。最初はドライバーから始めて経験を積み、別の運送会社で営業にも携わって、その後は統括支店長にも就任しましたが、勤務先の経営状況が悪化して早期退職することになったんです。

——当時はおいくつだったのでしょうか。

(松) 40歳でした。独立するのなら今だとも思ったのですが、運送会社の取締役に

引き抜かれて、そちらで営業支店長を務めました。さらに別会社の社長にお声がけいただいて、そちらでも営業部長を。その後、後継者を探していた『かつみ運輸』と出会って、約半年をかけて先代と会話を重ねながら引き継がせていただくことになったんです。そうして私が現職に就任したのが2023年の10月のことです。

——要職のご経験が豊富ですから、いよいよ経営者にといった感じですね。笠原所長は、社長と長いお付き合いなのでしょうか。

(笠) はい。前職で出会って、約10年の付き合いになります。

(松) 笠原は前職でも所長を務めていて、私が当社を継ぐ話をする以前から何かを察していたのか、「自分でやるつもりなら一緒にやる」と言ってくれていたんです。彼もまた業界経験が豊富で、自分と波長も合いますし、全面的に信頼しています。

——良きコンビのようですね。所長からご覧になった社長はどんな方でしょう。

(笠) 気さくで嘘がつけず、信用できる人です。だから、ついていこうと思ったんです。もちろん不安もありましたが、自分にとってもチャレンジできる環境があるならチャレンジをと決断しました。

——そうしてお二人のタッグが生まれた

のですね。従業員さんは何名ですか。

(松) 従業員が5名で、私たちを加えて7名です。先代は80歳近いながら運転が大好きな方で、会長職をお願いしたいと言ったのですが断られ、ドライバーとして現場に出ていらっしゃるんですよ。

——それは、実に精力的ですね。

(松) ええ。今後も体制の強化を進めたく、まずは人を増やし、車両も約100台までに増やすのが目標です。そして運送業に限らず、関連事業に着手し、グループ企業へと発展したいですね。利益は従業員に還元し、風通しの良い組織を築き、みんなで前進を続けます。

(2023年12月取材)



『かつみ運輸』さんの後継者として白羽の矢が立った松山社長。運行管理者の免許をお持ちで、さらに英語にも長けておられることもその理由の一つでしょう。海外経験や語学力など、全てが今につながっているのでしょうかね」 おさる・談